

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 ( 月 日実施)	総合評価（ 月 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①すべての生徒のわかりやすさに配慮した授業改善を行い、生徒一人ひとりに応じた進路等の目標実現に応える、社会に開かれたカリキュラムの実現を目指す。  ②各教科・科目において、積極的に探究的な学びに取り組み、「総合的な探究の時間」の充実を図り、積み重ねることで主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。	①生徒の希望進路の実現に向けて研究授業の実施、「指導と評価の効率的な運用」等、組織的な授業改善に取り組む。  ②「総合的な探究の時間」における学習活動を充実させ、自ら課題を発見し解決する能力の育成につなげる。 ②インクルーシブ教育の理念を踏まえた授業改善を一層推進し、ICTの効果的な活用にも努める。	①教員相互の授業見学や研究授業の機会を増やし、全員が他の教員の授業を参観し、教科会等で協議することで各々の授業スキルを高める。  ②「総合的な探究の時間」における学習活動を見直し、課題解決能力の育成につながる活動を実践する。 ②大型電子黒板の効果的な活用法を職員間で共有できるようデータベース化に取り組み、併せてユニバーサルデザイン化を推進する。	①授業見学の機会を効果的に設定することで、職員全員の授業参観に結び付いたか。 ①研究授業を実施できたか。 ①教科会等で研究協議を行い、より良い授業への改善に繋がったか。  ②「総合的な探究の時間」に課題解決能力の育成を目指す学習活動を組み込めたか。 ②大型電子黒板の活用に関わる取組を実践できたか。					
2	生徒指導・ 支援	①広く社会に貢献できる、規律ある生活習慣を身に着けた人材の育成に向けて、丁寧な生徒指導を行う。  ②生徒が主体的に学校行事や部活動に取り組むよう支援し、すべての生徒が活躍できるようにする。	①生徒一人ひとりの課題やニーズに合わせた支援体制、外部機関との連携を含めたチームによる相談体制の充実を図る。社会人として必要とされる基本的な生活習慣・人との関わり方を卒業までに身に着けるよう丁寧な指導を行う。  ②特別活動等で、生徒が主体的に活動し達成感等が得られるよう支援し、課題解決能力の向上を図ることで、生徒の将来のキャリアに繋げる。	①教育相談連絡会で生徒の個に応じた支援を考え SC・SSW や外部機関に繋ぐとともに、その後の情報共有を徹底することで必要な支援を行う。 ①登下校指導や遅刻指導、挨拶運動等の取組を通してルールやマナーを身につけさせる。  ②部活動や新入生歓迎会、挨拶運動、体育祭、翔矢祭、スポーツ大会等の各行事において、生徒会を中心に生徒が主体的に活躍できるよう支援する。	①担任、授業担当を含め、学年団、全職員がケースごとに支援策に応じた対応ができたか。 ①支援が、生徒の課題解決につながったか。 ①生徒自身がルールやマナーを守る生活習慣・言動を身につけたと感じたか。  ②生徒会行事を通して、達成感を得られた生徒が 90%以上となったか。					

	視点	4 年間の目標 (令和6年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 ( 月 日実施)	総合評価 ( 月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①「ちょっと背伸びの進路実現」を目指した将来の自己実現に向けた指導を行う。  ②生徒の希望進路の実現のため、進路支援体制の充実を図り、きめ細かな進路支援を行う。	①キャリア教育実践プログラムをブラッシュアップし、生徒の個性や進路意識の段階に応じたキャリア教育を推進する。  ②インクルーシブな視点で生徒一人ひとりの 5 年後 10 年後を見据え、個別最適な進路支援を行えるよう進路支援体制の充実を図る。	①「総合的な探究の時間」を担当・副担任で協働して行う体制を整え学習効果を上げる。 ①個々の生徒に応じた到達度テストの活用、事前学習や事後指導となるよう改善する。  ②説明会・面談等の実施時期、事前・事後指導を適切に設定する。 ②卒業生を講師とする説明会等、より効果的な説明会のスタイルを工夫し、実施する。	①「総合的な探究の時間」を担当副担任が協働して実施できたか。 ①到達度テストの活用を個々の生徒に応じたものに改善できたか。  ②説明会・面談等の時期及び事前・事後指導を効果的に実施できたか。 ②就職希望者が全員内定して卒業すること、進路目標を持たない未決定者が10人以内を目標とする。					
4	地域等との協働	①地域の期待に応えながら、地域の担い手として成長できるような人材の育成を目指す。  ②部活動・生徒会活動や、美術科の活動を発信し、地域との協働を図るとともに学校の魅力を発信する。	①積極的に地域の活動に参加し、生徒が様々な経験をすることで、将来地域を支える人材を育成する。  ②部活動、生徒会、美術科等の活動において地域と協働した活動の場を増やすとともに、学校の魅力を積極的に発信する。	①地域の町内会や近隣小学校等の行事に部活動等に参加する。  ②美術科の作品の校外展示、アートスクール等の説明会で学校の魅力を発信する。 ②陶芸教室の実施等、地域との協働活動を推進する。 ②美術科の造形力を取り入れた魅力的なホームページなどでの学校の情報発信を行う。	①地域にリサーチを行い、期待に応えられたかを検証する。  ②前年度より多くの校外展示を実施できたか。 ②陶芸教室参加者の期待に応えられたか。 ②ホームページの内容を充実させ、生徒の活動や学校の魅力をタイムリーに発信できたか。					
5	学校管理 学校運営	①「共に学び共に育つ」共生社会の実現を目指す。  ②安全・安心で信頼できる学校づくりを進める。	①職員全員の意識を高め、個々の生徒の状況を多角的に捉え、人権に配慮した対応を適切に行う。 ②より良い教育の実現のため、業務の効率化を進めるとともに、不祥事ゼロ達成に取り組む。具体的な非常事態をイメージし防災体制の強化を図る。また、地域と連携した取組を推進する。	①情報共有会議で職員全員に生徒の状況を周知する。 ①生徒の実態に即したテーマで職員の人権研修を行う。  ②セキュリティを確保しながら、さらに Teams を有効活用する。 ②定期的な研修を継続し、不祥事ゼロを達成する。 ②地域との連携の在り方を学校運営協議会で検討し、実効性のある防災体制に近づける。	①研修の振り返り等により、職員が人権に配慮した教育活動の在り方を再確認できたかを検証する。  ②職員間の迅速な情報共有により、勤務形態の多様化に対応できたか。 ②事故防止研修を適切な時期に行い、不祥事ゼロを達成できたか。 ②防災体制について学校運営協議会で協議し災害時の体制について情報を共有できたか。					